

3. 回答結果と分析

(1) まとめと分析

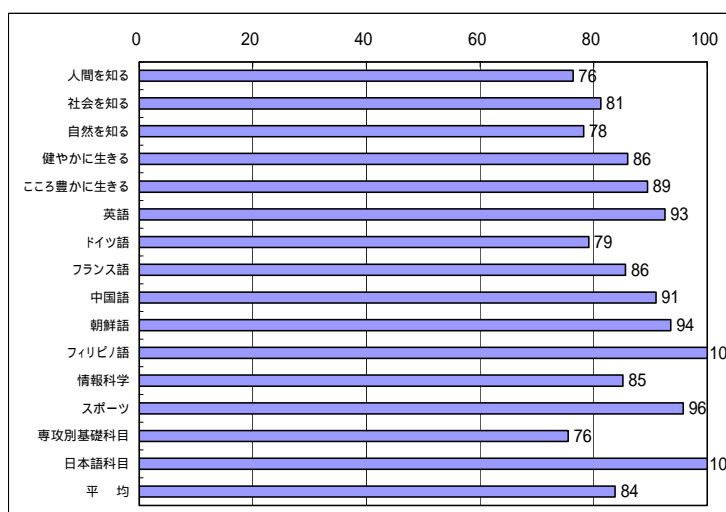
(2) 以下に示される平成17年度前学期の集計結果を、設問ごと4段階評価(授業のレベルのみ5段階評価)において、肯定的評価を下した学生の割合を示し、科目別の傾向を分析する。

1) 「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「目的・目標の理解」であるが、平均すると84%の学生が肯定的評価を行っており、概ね学生は授業の目的・目標を理解できていると判断できる。授業の目的が明確な「スポーツ」「英語」や未習外国語の多くが90%以上の肯定的評価を得ている。しかし「専攻別基礎科目」「ドイツ語」「人間を知る」は70%台に留まっている。目的・目標を理解できないまま、学習を継続することは学習効果が低くなるので、改善が求められる。

表1 設問 1-1目的・目標の理解
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

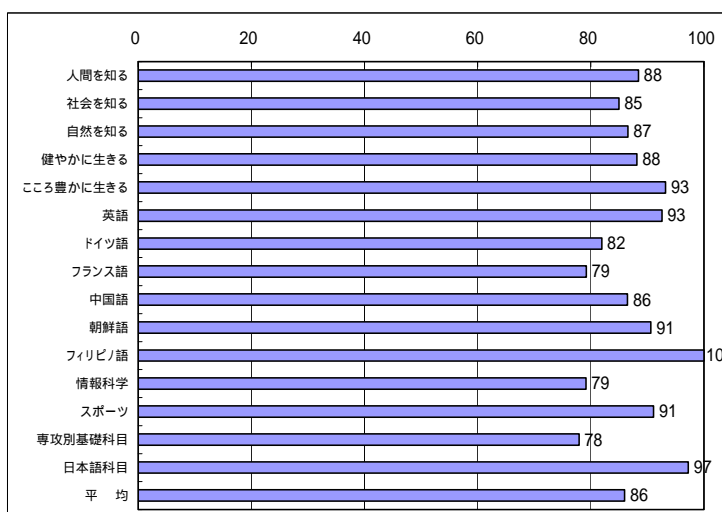
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	73	73	76
社会を知る	79	85	81
自然を知る	77	83	78
健やかに生きる	83	87	86
こころ豊かに生きる	93	83	89
英語	86	100	93
ドイツ語	84	84	79
フランス語	89	91	86
中国語	90	90	91
朝鮮語	91	87	94
フィリピン語	100	100	100
情報科学	82	92	85
スポーツ	95	96	96
専攻別基礎科目	73	79	76
日本語科目	100	100	100
平均	80	85	84



次に「進捗・時間配分」の適切さであるが、平均で86%の学生から肯定的評価を得た。個々の学生の習熟度に格差が出やすい「専攻別基礎科目」「情報科学」は、70%に留まっており、進捗や時間配分に注意が必要となる。

表2 設問 1-2進捗・時間配分
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

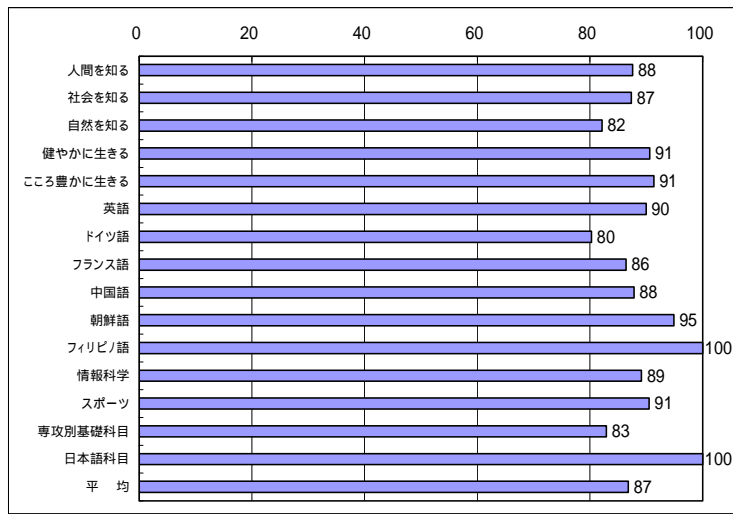
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	82	82	88
社会を知る	83	87	85
自然を知る	80	89	87
健やかに生きる	86	83	88
こころ豊かに生きる	93	82	93
英語	100	93	93
ドイツ語	83	85	82
フランス語	82	86	79
中国語	84	90	86
朝鮮語	95	90	91
フィリピン語	100	100	100
情報科学	76	86	79
スポーツ	92	94	91
専攻別基礎科目	75	81	78
日本語科目	98	100	97
平均	82	86	86



「シラバスどおりの授業」については、全科目平均で87%、科目別でも80%を超えて科目間でのばらつきも少ない、肯定的な評価を得た。学生は、授業の進め方をシラバスから読み取り、その通り実践されていることが裏付けられたと判断できる。

表3 設問 1-3 シラバスどおりの授業
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

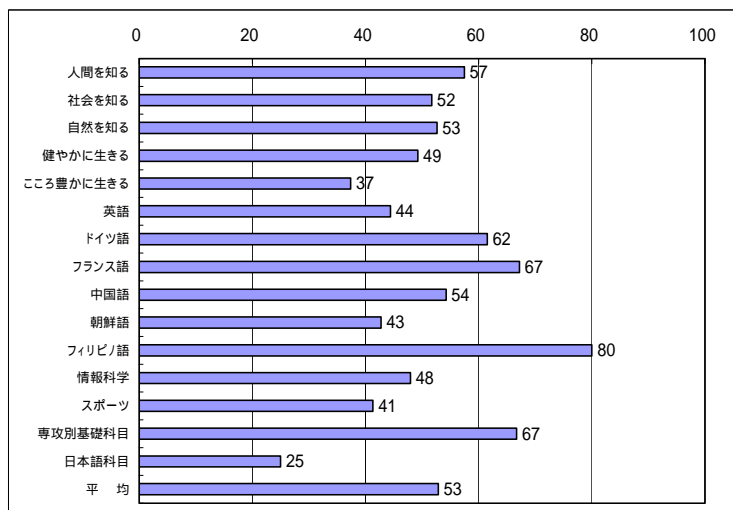
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	85	84	88
社会を知る	85	89	87
自然を知る	83	87	82
健康やかに生きる	85	84	91
こころ豊かに生きる	89	80	91
英語	100	100	90
ドイツ語	84	85	80
フランス語	85	91	86
中国語	86	89	88
朝鮮語	92	91	95
フィリピン語	100	100	100
情報科学	84	92	89
スポーツ	92	93	91
専攻別基礎科目	82	85	83
日本語科目	98	97	100
平均	85	87	87



「レベル」については、全科目平均で53%しか肯定的な回答を得られなかった。約半数の学生しかレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「こころ豊かに生きる」「英語」「朝鮮語」「情報科学」「スポーツ」「日本語科目」については、その意味を解釈するより深いデータ収集を行い、レベルの再設定もしくは習熟度別クラス編成などを検討すべきである。授業内容のレベルの評価が落ち込む要因は、学生の学習背景の多様化、大学における授業スタイルの未習熟、わかりやすさの欠如など様々な要因が複合的に絡むことが多い。そのため、授業内容のレベルは学生と教員のコミュニケーションにより臨機応変に対応することが求められる。

表4 設問 1-4 レベル
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	56	52	57
社会を知る	48	42	52
自然を知る	49	52	53
健康やかに生きる	49	32	49
こころ豊かに生きる	32	39	37
英語	71	53	44
ドイツ語	58	56	62
フランス語	49	51	67
中国語	49	53	54
朝鮮語	50	49	43
フィリピン語	100	100	80
情報科学	51	44	48
スポーツ	38	38	41
専攻別基礎科目	60	62	67
日本語科目	32	29	25
平均	51	49	53

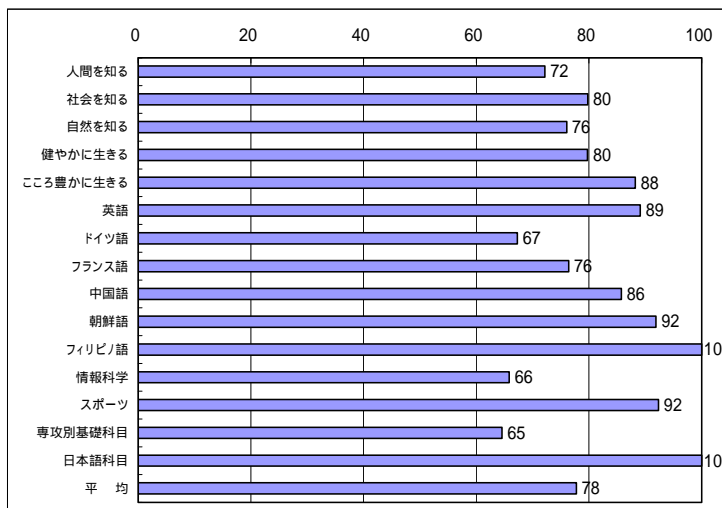


2) 「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では78%の肯定的評価を得るものの、科目毎のばらつきが大きい。「ドイツ語」「情報科学」「専攻別基礎科目」において数値が低くなっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法(テクニック等)に起因する場合が考えられる。「情報科学」は難易度についても、低い評価を受けており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。

表5 設問 2-1 わかりやすさ
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

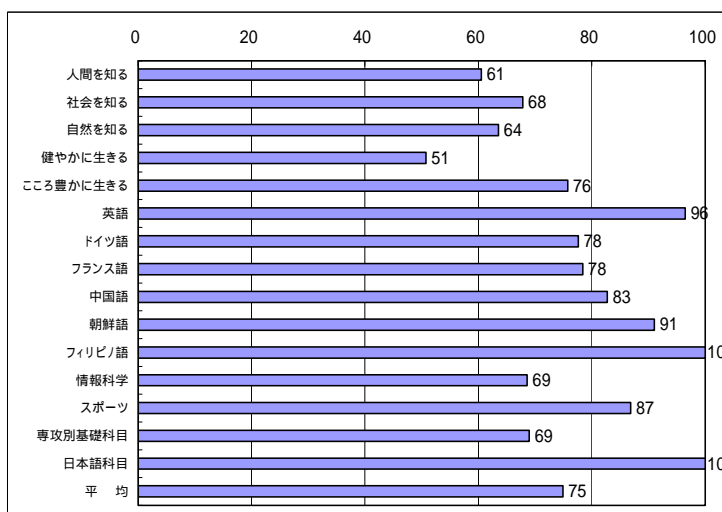
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	67	71	72
社会を知る	74	80	80
自然を知る	71	78	76
健やかに生きる	72	81	80
こころ豊かに生きる	92	81	88
英語	57	100	89
ドイツ語	66	78	67
フランス語	76	82	76
中国語	83	87	86
朝鮮語	91	86	92
フィリピン語	100	100	100
情報科学	66	77	66
スポーツ	91	93	92
専攻別基礎科目	62	69	65
日本語科目	100	100	100
平均	72	79	78



「コミュニケーション」については、全科目平均の肯定的評価が75%であり、数値が向上している。FDでも学生参加型の授業を推進しており、成果が出ているといえる。「健やかに生きる」が50%代という結果であった。学生のコミュニケーション能力の向上が社会的要請として求められていることから、授業における教員と学生両者のコミュニケーションのはかり方を引き続きFDの重要課題としていかなければならない。

表6 設問 2-2 コミュニケーション
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

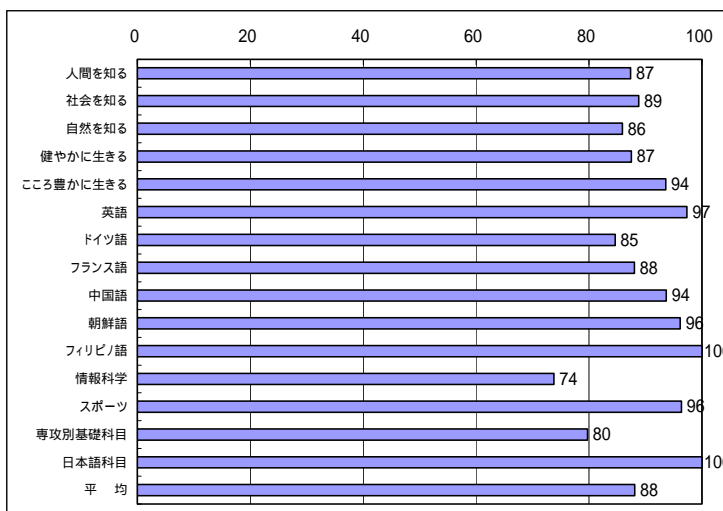
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	56	59	61
社会を知る	59	72	68
自然を知る	53	63	64
健やかに生きる	65	65	51
こころ豊かに生きる	82	70	76
英語	57	93	96
ドイツ語	76	82	78
フランス語	80	92	78
中国語	81	85	83
朝鮮語	94	80	91
フィリピン語	100	100	100
情報科学	70	76	69
スポーツ	83	89	87
専攻別基礎科目	66	67	69
日本語科目	100	100	100
平均	66	72	75



「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が88%であった。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、この評価がさらに伸びるよう期待したい。「情報科学」、「専攻別基礎科目」はここ数年低調であり、部会での検討が必要であろう。

表7 設問 2-3 教員の意欲・熱意
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

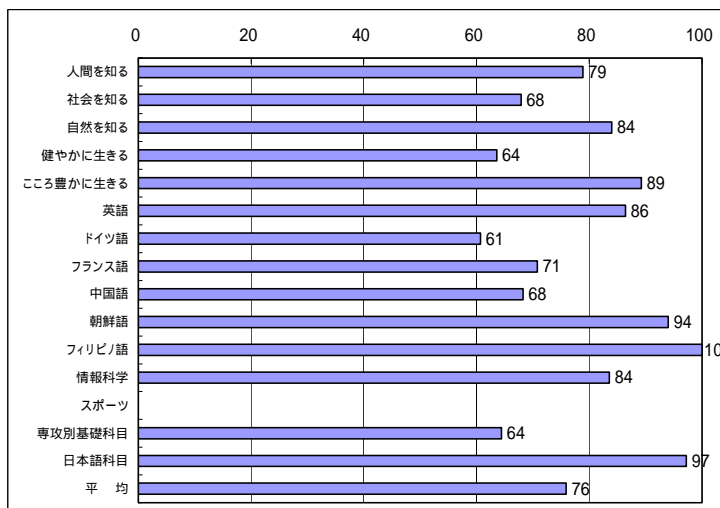
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	87	85	87
社会を知る	87	90	89
自然を知る	83	85	86
健やかに生きる	88	88	87
こころ豊かに生きる	97	91	94
英語	43	100	97
ドイツ語	86	88	85
フランス語	88	91	88
中国語	92	93	94
朝鮮語	97	91	96
フィリピン語	100	100	100
情報科学	74	81	74
スポーツ	97	96	96
専攻別基礎科目	75	81	80
日本語科目	100	97	100
平均	84	87	88



「視聴覚教材」は、学生の理解を促すため、授業の教授手法の一つであるビデオ・コンピュータ機材を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では76%の肯定的評価を得た。科目特性により視聴覚教材の使用の意味に差異があるので、必ずしもこの数値が授業の質を表現するものとはならないが、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いのないので、積極的に使用すべきであろう。

表8 設問 2-4 視聴覚教材
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

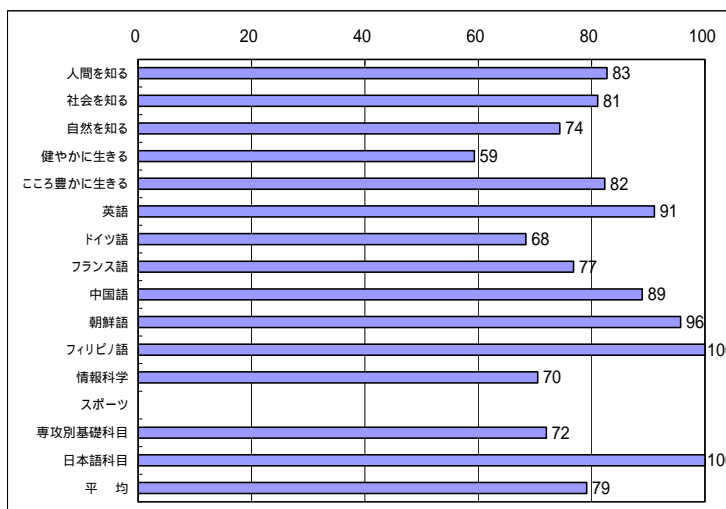
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	76	70	79
社会を知る	71	69	68
自然を知る	76	83	84
健やかに生きる	52	74	64
こころ豊かに生きる	90	86	89
英語	57	100	86
ドイツ語	63	69	61
フランス語	70	77	71
中国語	66	72	68
朝鮮語	81	80	94
フィリピン語	100	100	100
情報科学	79	89	84
スポーツ			
専攻別基礎科目	60	66	64
日本語科目	98	97	97
平均	71	74	76



「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が79%であった。学生から自由記入欄で指摘される問題の中に、シラバスに教科書を指定した場合は必ず授業中で使用し、その価値を説明して欲しいという要望が数多く寄せられる。このコメントを真摯に受け止め、シラバスに記載する内容に対して今後もきちんとした説明が求められることを認識すべきであろう。

表9 設問 2-5 教科書・プリント
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	78	76	83
社会を知る	79	84	81
自然を知る	65	76	74
健やかに生きる	58	74	59
こころ豊かに生きる	84	84	82
英語	71	100	91
ドイツ語	76	78	68
フランス語	78	79	77
中国語	88	89	89
朝鮮語	94	89	96
フィリピン語	100	100	100
情報科学	66	83	70
スポーツ			
専攻別基礎科目	69	74	72
日本語科目	100	97	100
平均	74	79	79

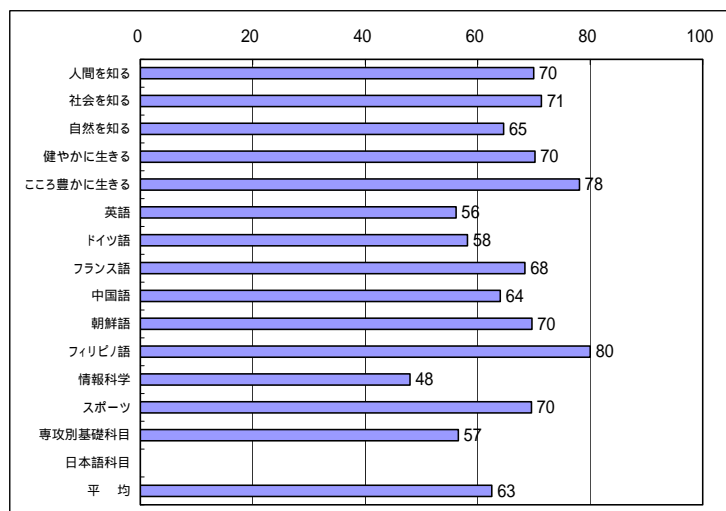


3) 「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」は、全科目平均で63%の肯定的評価であった。ということは、4割の学生はシラバスをほとんど読まずに受講していることとなる。シラバスを読むことで、学習内容を大まかにつかむことは学習効果を高めることに繋がることをガイダンス等で周知したい。

表10 設問 3-1 シラバス
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

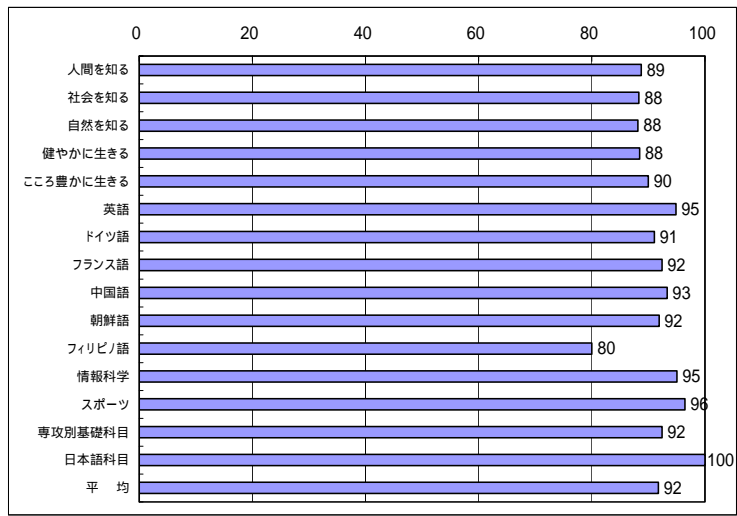
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	69	71	70
社会を知る	71	74	71
自然を知る	63	72	65
健やかに生きる	68	78	70
こころ豊かに生きる	81	79	78
英語	86	87	56
ドイツ語	60	66	58
フランス語	54	72	68
中国語	68	68	64
朝鮮語	66	64	70
フィリピン語	67	75	80
情報科学	53	68	48
スポーツ	67	70	70
専攻別基礎科目	55	63	57
日本語科目			
平均	64	70	63



「出席状況」は全科目平均で92%であり、一部を除いてほぼ90%の肯定的評価を得ている。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。評価が低い「フィリピン語」については見直しが必要であろう。

表11 設問 3-2 出席状況
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

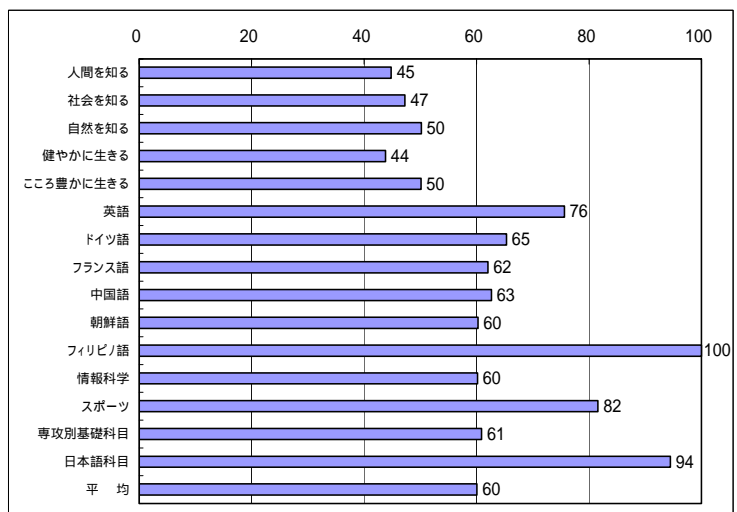
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	87	81	89
社会を知る	87	85	88
自然を知る	89	87	88
健やかに生きる	88	87	88
こころ豊かに生きる	89	84	90
英語	57	33	95
ドイツ語	94	88	91
フランス語	91	93	92
中国語	94	91	93
朝鮮語	93	84	92
フィリピン語	67	75	80
情報科学	95	95	95
スポーツ	97	95	96
専攻別基礎科目	93	93	92
日本語科目	94	87	100
平均	91	89	92



「学習態度」については、全科目の肯定的評価は60%であった。特に「人間を知る」、「社会を知る」、「自然を知る」、「健やかに生きる」「こころ豊かに生きる」の主題科目群が50%を下回るなどあまり積極的に授業に臨んでいるとは言い難い状況にある。

表12 設問 3-3 学習態度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

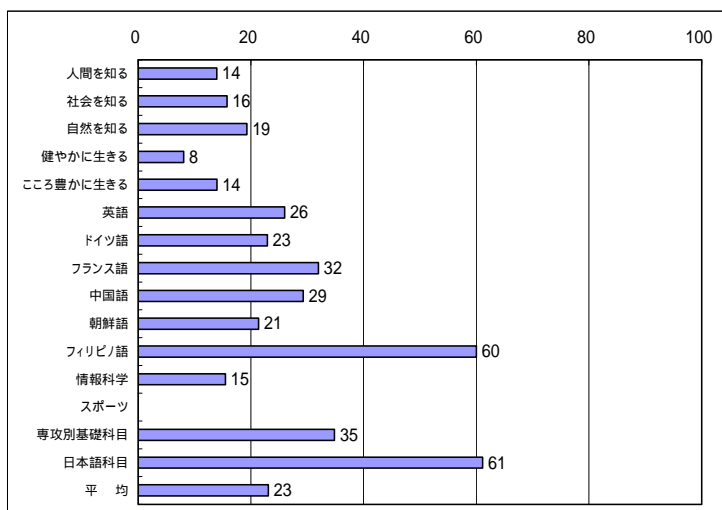
	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	41	41	45
社会を知る	43	48	47
自然を知る	42	51	50
健やかに生きる	60	54	44
こころ豊かに生きる	60	46	50
英語	43	47	76
ドイツ語	58	62	65
フランス語	66	73	62
中国語	62	62	63
朝鮮語	66	63	60
フィリピン語	67	100	100
情報科学	70	75	60
スポーツ	81	83	82
専攻別基礎科目	59	64	61
日本語科目	96	97	94
平均	55	59	60



「授業時間外学習」についてだが、授業科目毎に1時間以上行う学生の比率は23%であった。現行の単位制度では、1単位は 教員が教室等で授業を行う時間及び 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間、の合計で標準45時間の学修を要する教育内容を持って構成されている。そのため、自宅学習時間の取り組みが低いことは問題である。そんな中で、60%の学生が1時間以上の授業時間外学習をしている「フィリピン語」と「日本語」について、どのような課題を出しているのか深い調査の実施が必要である。

表13 設問 3-4 授業時間外学習
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	10	7	14
社会を知る	12	9	16
自然を知る	8	14	19
健康やかに生きる	12	12	8
こころ豊かに生きる	16	13	14
英語	14	47	26
ドイツ語	19	22	23
フランス語	34	30	32
中国語	25	22	29
朝鮮語	16	15	21
フィリピン語	50	75	60
情報科学	22	27	15
スポーツ			
専攻別基礎科目	27	32	35
日本語科目	48	58	61
平均	18	19	23

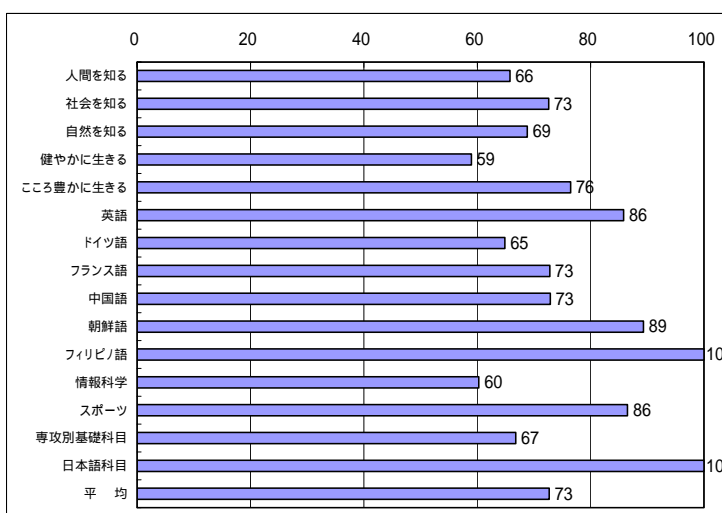


4) 「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」についてだが、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、科目全体で73%の学生から肯定的評価を得た。数値は年々改善されており、教員の努力が感じられる。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識し、改善に向けて対処するかということを、学生に伝えることが必要であろう。学生からすれば当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

表14 設問 4-1 改善度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度
	前	後	前
人間を知る	66	64	66
社会を知る	77	73	73
自然を知る	60	73	69
健康やかに生きる	64	69	59
こころ豊かに生きる	81	72	76
英語	43	93	86
ドイツ語	63	73	65
フランス語	67	80	73
中国語	72	80	73
朝鮮語	87	80	89
フィリピン語	83	100	100
情報科学	64	76	60
スポーツ	85	87	86
専攻別基礎科目	61	69	67
日本語科目	90	94	100
平均	68	73	73



「目的・目標達成度」は授業に対する目的・目標の達成度を質問しており、全科目平均では82%、科目間のばらつきがあるものの概ね全ての科目で70%を超える肯定的評価となった。実技中心であり、授業の目標・目的が比較的明確な「スポーツ」「朝鮮語」「フィリピン語」「日本語科目」は100%に近い高い評価となっている。

ただし、授業全体としての「満足度」は「専攻別基礎科目」で70%の肯定的評価であり、さらなる改善が求められよう。共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけませんが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。目的・目標達成度や満足度があまり高くない科目については、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

表15 設問 4-2 目的・目標達成度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度前
	前	後	
人間を知る	74	77	78
社会を知る	77	81	81
自然を知る	76	83	78
健やかに生きる	81	84	82
こころ豊かに生きる	92	82	88
英語	86	100	90
ドイツ語	80	80	76
フランス語	82	87	78
中国語	85	88	87
朝鮮語	90	84	93
フィリピン語	100	100	100
情報科学	78	87	81
スポーツ	96	95	94
専攻別基礎科目	71	79	75
日本語科目	98	97	100
平均	78	83	82

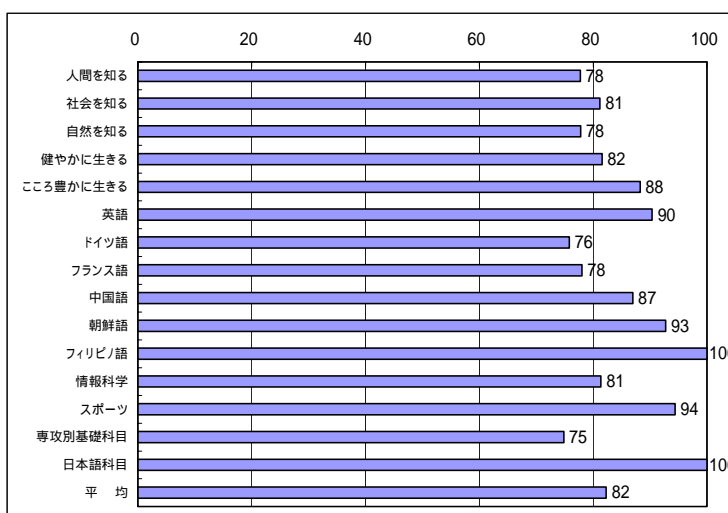


表16 設問 4-3 満足度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成16年度		17年度前
	前	後	
人間を知る	71	72	74
社会を知る	74	79	78
自然を知る	72	79	75
健やかに生きる	75	81	84
こころ豊かに生きる	90	75	88
英語	57	93	90
ドイツ語	73	79	74
フランス語	80	86	78
中国語	84	85	86
朝鮮語	92	83	92
フィリピン語	100	100	100
情報科学	75	82	75
スポーツ	95	93	93
専攻別基礎科目	65	72	70
日本語科目	100	97	100
平均	75	79	80

